

序 論

選択式問題の学習について

- ・ 選択式問題の例題に触れることは、選択式対策だけでなく、基礎知識の学習につながります。正しい語句を挿入した文章を繰り返し読むことも良い勉強になります。
- ・ 条文や基本的判例などの文章に使用されている語句を正確に記憶しておく必要があります。テキストと過去問を繰り返し読み、慣れておきましょう
- ・ 社会的に注目されている事項は、選択式、択一式ともに出題されやすいと考えられます。
- ・ 手を広げすぎず、同じ問題集を繰り返すことを勧めます。
- ・ 判例からの出題は頻出です。重要判例には目を通しましょう。
- ・ 全く見たことのない問題が仮に出題されてもそれは他の受験生も同じ。常識的な判断で解答しましょう
- ・ 選択式問題の基準点が合否を左右する例が多くみられます。択一式で合格ラインを超えていて、選択式の1点で悔しい思いをした、と言う受験生が例年多数います。しっかりと対策をしましょう。

選択式問題のアプローチの仕方

1 問題を読む

最初から選択肢は見ない方が良い（選択肢に引っ張られないため）。
まずは選択肢を見なくても回答できるものから回答していく。

2 問題の余白に答え（キーワード）をメモしておく

3 選択肢をグルーピングする（選択肢無しには回答できない場合）

選択肢をグルーピングする。
空欄 1 つに対し、4 つの選択肢の候補がある。

4 選択肢を絞り込む

推測型問題の選択肢の絞り方

社労士試験の選択式問題は、大別すると、次の二つに分別される。

①	知らなければ解くことができない問題	知識型問題
②	知らなくても問題文から推測することで正解を絞り込むことができる問題	推測型問題

知識型については、知らなければ解きようがない。

ここでは推測型において、どのようにキーワードを推測し、絞り込むことができるかを平成27年の過去問を例に考えてみたい。